

文化財めぐり

## 野母崎地区の文化財

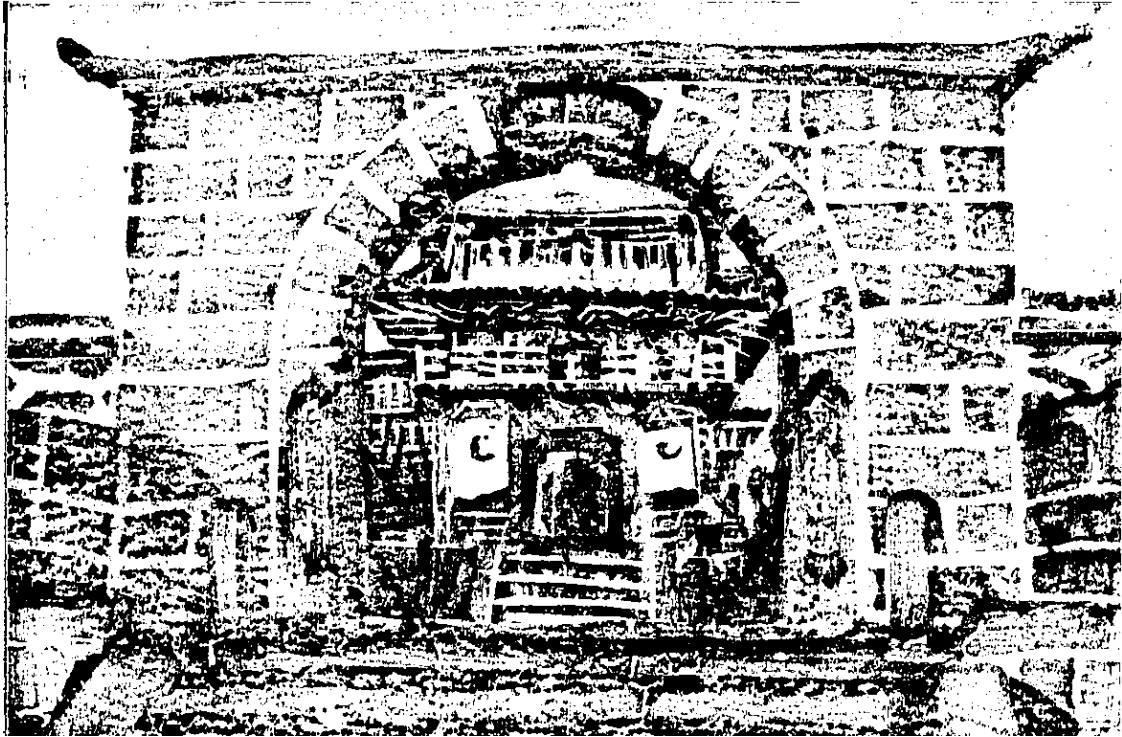
発行日 平成18年11月19日

発行所 長崎市魚の町5-1

長崎市教育委員会

生涯学習部文化財課

TEL 829-1193



題「観音寺（野母崎）」木版画 2006年 作 田中偉久子（文化財サポーター）

日 時 平成18年11月19日（日）9:00～13:00

コース 市民会館（集合）～野母崎の変はんれい岩露出地～

観音寺～オオウナギ生息地～脇岬のビーチロック～

正瑞寺～市民会館（解散）

主 催 長崎市教育委員会

講 師 文化財サポーター 野母崎地区

えんつうざんかんのんぜんじ

## 圓通山観音禅寺（曹洞宗）

今から約 1300 年前、和銅 2 年（709）行基によって創建されたといわれています。当時は、現在の場所より北方約 1 km の山ふところに観音堂があったものと思われ、その山一帯を堂山といい、字名も堂山と称しています。

現在の観音堂は、約 200 年前（天明年間）に建立されており、用材も檜が使われています。

もくぞうせんじゆかんのりゆうぞう

## 木造千手観音立像（国指定重要文化財）

「みさきの観音さま」と呼ばれ、古くから信仰を集めてきた千手観音像です。像高は 2 m 半に近く、頭上に十一面を戴き、頬の張りも豊かで、穏やかに見下ろす円満な面相は藤原彫刻のふくよかさを伝えていいます。像容は 42 臂の普通の千手観音像であり、裳の襷はことに薄く浅く彫出されています。



かんのんじ ほんしやう

## 観音寺の梵鐘（市指定有形文化財）

観音寺の縁起書によると室町時代後期、天草の海賊が来襲、寺の仏具、宝物を奪い海中に投じて退去し、その後、宗像郡の東光寺の梵鐘を得たと書かれています。

現在の鐘は、延享 2 年（1745）長崎の鋳物師安山弥五左衛門國久が改鋳し、佐賀藩深堀家の家臣、長洲九左衛門が寄進したものです。高 121.0 cm、口径 69.8 cm の鋳銅製で、佐賀藩深堀領脇岬の歴史を物語る貴重な資料です。

てんじやう え

## 天井絵（県指定有形文化財）

観音寺本堂の格天井 150 枚（1 枚の大きさ 42×42 cm）の 1 枚毎に描かれた花卉図です。

この天井絵の中に、シーボルトのお抱え絵師であった川原慶賀※の落款、印章のあるものが 4 枚含まれています。他に 4 枚清人華蘭徼の落款のあるものがあります。他は無落款ですが、その中に「長崎画史賞鑑家七十九翁、禁衣画師石崎融思敬写、同石崎融濟謹写、補助石崎融吉敬写」の文字を記した 1 枚があります。このことから天井絵全体は石崎一族の仕事であったことがわかります。慶賀はこのプロジェクトの一員として加えられたものと思われます。慶賀と融思の関係は晩年まで続いていました。この天井絵は、長崎の飛鳥氏が、先祖菩提のため奉納したものです。



かわはらけいが

## ※川原慶賀（1786 年？～不明）

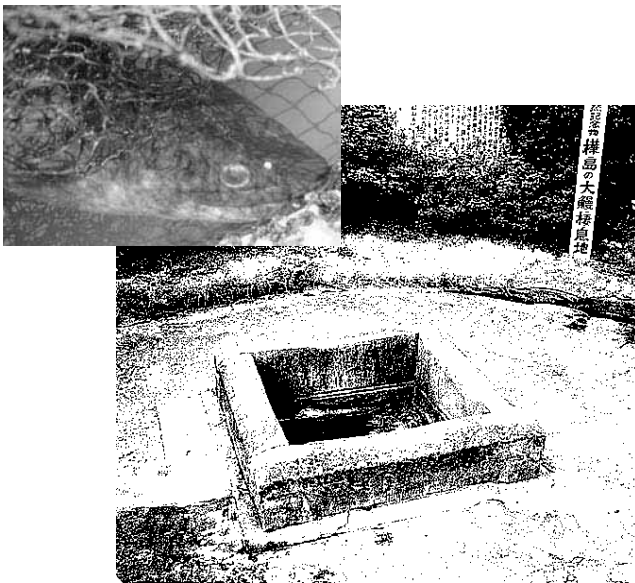
通称を登与助、字を種美、号を慶賀、また別号を聴月楼とし、後に氏を田口と改めています。父は川原香山。生年については、万延元年（1860）に描かれた肖像画に「七十五歳種美写」の落款があり、逆算して天明 6 年（1786）生まれと推定されます。慶賀はシーボルトのお抱え絵師として知られ、文政 9 年（1826）シーボルトの江戸参府にも同行しています。文政 11 年（1828）のシーボルト事件に連座して、約 40 日間入牢し、出牢後は町預かりとなっています。また、天保 13 年（1842）長崎西役所や港内警備の細川藩・鍋島藩の紋の入った絵をオランダ人のために作画したかどで、同年 9 月 21 日手鎖預かり、11 月 13 日江戸並びに長崎所払いの刑を受けています。慶賀の作品は、国内だけでなく、ライデン博物館に数百点あるなど、日本を紹介する資料として世界各地に所蔵されています。

## オオウナギ生息地<sup>せいそくち</sup> (国指定天然記念物)

長崎市野母崎樺島町の樺島港の奥部に、昔から南方系のオオウナギが生息する共同井戸があります。この井戸は直径 1.6m、深さ 5 mあり、昔は近所の人たちによって利用され、オオウナギと一緒にこの井戸水を飲んでいました。

現在は 8 代目となる体長 181.0 cm、胴回り 50.2 cm、体重 16.6 kg のオオウナギが生息しており、全国の方々から募集した「ウナ太郎」という愛称が贈られています。南方産の「カニクイ種」という学術上貴重な種類のもので、

このオオウナギ生息地は、大正 12 年 3 月 7 日に国の天然記念物に指定されています。



## 脇岬のビーチロック<sup>わきみさき</sup> (県指定天然記念物)

脇岬トンボロ（陸けい砂州）の西海岸に、干潮時に現れる岩礁<sup>がんしょう</sup>があります。海浜の小石（礫）や砂などが石灰質により固結してできた一種の海浜性の堆積岩で、通常は砂浜と海水の間にあり、満潮時は海水に没して、干潮時に露出します。祇園山の付け根で扇形に広がっており、干潮時に露出した所で長辺約 240 m、短辺約 100mを測り、面積約 24,000 m<sup>2</sup>という大規模なものです。年代測定から約 6000 年前以降に形成されてきたことが知られています。

世界的にビーチロックは、熱帯の珊瑚礁、海岸に多く見られ、我が国では、南西諸島や小笠原諸島によく発達します。脇岬のものは九州本土では北限であり、非珊瑚礁地域でこれ程大規模に発達したビーチロックは極めて珍しいものです。

## 野母崎の変はんれい岩露出地<sup>の も ざ き へん が ん ろ し ゅ つ ち</sup>

(県指定天然記念物)

長崎半島（野母半島）の先端、野母崎の北部約 4 km の海岸は、波に侵食を受けた海食崖の景観を呈し、暗緑灰色の硬い岩石が露出しています。この岩石は、地質学的には「野母変はんれい岩複合岩体」と呼ばれるもので、地殻変動によって地表に露出したものです。この地域の変はんれい岩の放射年代を測定した結果、約 4 億 8 千万年前という非常に古い生成年代を示すことが判明しました。長崎半島や西彼杵半島に広く分布する「長崎変成岩類」の年代が約 6～9 千万年前であるのと比較すると、その古さが際立っています。

## 正瑞寺地藏銅像<sup>しょうずいじじぞうどうぞう</sup> (県指定有形文化財)

この地藏菩薩立像は、中国明代の様式のものであり、長崎の崇福寺の像と同様のものと推定されます。掌に宝珠<sup>ほうじゆ</sup>をのせ顔の表情も写実風で、後頭部や胸部の状態が肉感的です。小指の爪等細部にわたり写実風の特異な表情をもった作です。高 86.7cm、巾 28.8cm を測り、この時代の鋳銅像でこれほど大きなものは少なく、近世仏像の中で貴重な作例といわれています。正瑞寺の納骨堂内に安置されており、背面の銘記によると、当寺の 2 代住職浄西の代、延宝<sup>えんぼう</sup> 2 年 (1674)、長崎の葉山市左衛門から寄進されたものです。江戸初期、長崎の中国系仏師中山八左衛門の製作です。



べんてんやまじゆそう  
弁天山樹叢 (県指定天然記念物)



わきみさき  
脇岬ノアサガオ群落 (県指定天然記念物)



かんのんじ みんぞくかんけいしりょう  
観音寺の民俗関係資料 (市指定有形民俗文化財)



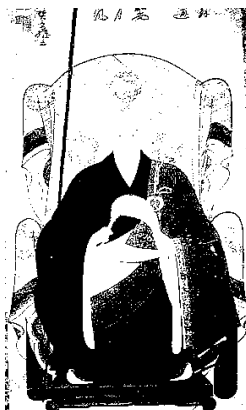
観音寺の宝篋印塔



観音寺の「慈悲」・「圓通」



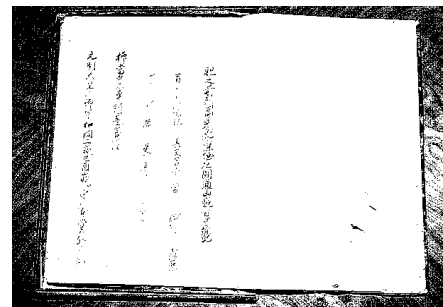
涅槃図



観音寺歴代住職頂相画像



達磨大師半身画像



圓通山観音寺縁起書

MEMO